国語科通信

まなび！net

Vol.03
2021.08

秀学社

- 国語科の授業のアイデアを広げたい！
- 具体的な実践事例を知りたい！
- 授業の導入に使える小話はないだろうか？

そんな先生方のために，秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

GIGAスクール構想 1人1台端末を効果的に活用した国語実践

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校
土持（つちもち）　知也（ともや）

二〇二〇年、コロナ禍で急激に加速したGIGAスクール構想。令和の時代、一人一台端末がスタンダードとなるように、学校環境も急激に変わりつつある。先行きの見えない、予測困難な社会で生き抜く子どもたちを育てていくために、私たち教員にも変化が求められている。今回は一人一台端末の強みを生かした授業をしていくための最初の段階としての実践を紹介していきたいと思う。

導入期における一人一台端末を生かした国語実践

端末の導入期において大切になるのは、「使ってみよう」という気持ちである。導入期で背伸びをし過ぎてしまうと先生方の教材研究も追いつかず、また、端末操作が苦手な生徒も学習が嫌になってしまう可能性がある。一人一台端末の導入期では、アプリや機能を複雑に使いこなすことはさせずに、端末の機能をシンプルに使う授業を心がけることをオススメしたい。次の例は、どれもシンプルな機能を使った授業であり、誰でも簡単に真似ができるので、ぜひ実践してみてほしい。

1 相手の反応を踏まえて、分かりやすく伝わるように表現を工夫する単元

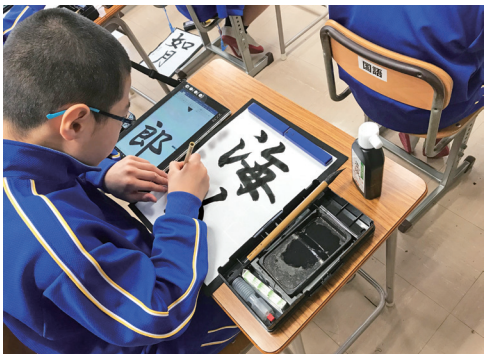
一年生の「話すこと・聞くこと」で、端末の録画機能を使った実践である。話し手は相手の反応を踏まえて表現を工夫しながら発表した。写真は、撮影した発表の様子を発表者が振り返りながら、分かりやすく伝わるように工夫した点について、聞き手と共有しているところである。自分の発表について、客観的に振り返りができ、成果と課題を明確にすることが期待できる。

2 読み手からの助言を踏まえて書く単元

二年生の「書くこと」で、Ｗｏｒｄソフトを用いた実践である。この単元では、学校の宿泊行事を振り返る文集の下書きを行った。Ｗｏｒｄソフトには原稿用紙設定があり、文集の清書の用紙と同じ枠で、文章を推敲できるという利点がある。生徒は自分の文章を何度も読み返したり、他者の文章を読み、自分の文章に生かしたり、他者から助言をもらったりしながら自分の文章を粘り強く推敲している姿が見られた。

3 目的に応じて読みやすく速く書く単元

二年生の書写の授業では、手本や自分が書いた作品を撮影し、ペイント機能を用いて、改善のポイントを書き込ませた。他者からの助言や次回意識したいポイントなどを書き込むことで、課題意識をもって学習に取り組んでいる様子が見られた。



〝手段としての〟端末の活用を目指す

以上の三つの実践は使っている機能についてはどれもシンプルなものである。他にも国語の学習の「読むこと」においては、言葉から形をイメージできないものについて、インターネットで画像を検索する使い方が考えられる。ＰＣやタブレットなどの端末を活用する際は、あくまで手段であることを忘れないようにしたい。端末の機能を活用することで、生徒の学習が深まったり、効果的に学習を振り返ることができたりするなど、目的を達成するための手段として、まずは先生方ができる範囲で取り組んでいくことから始めてみてはどうだろうか。

〔編集部のつぶやき〕語彙指導の充実

荒川洋平先生の「日本語という外国語」（講談社）を読んでいます。日本語を学ぶ外国の方々を教えるなかで気づいたことが書かれています。少し紹介しますと，学習者が日本語を学ぶ際に難しく感じる点の一つは「単語の数が多い」だそうで，日本の大人の理解語彙は４～５万語，使用語彙は１～1.5万語に対し，フランスやイギリスの使用語彙は5千語程度なのだそうです。教えるべき単語は基本的な使用語彙（日本語能力試験のレベルごとに出題単語リストあり）からですが，その際には，コロケーション（他のどの単語と使われるか：例・傘をさす）とコノテーション（言葉の含む良い悪いのニュアンス：例・せっかち/手早い）を意識されるそうです。授業のヒントになれば幸いです。（編集部：大空）

秀学社 国語科 LINE公式アカウント
コクカフェ
▼役立つ情報を配信します。
ぜひご登録ください。